

令和3年6月25日

令和3年度第1回世界農業遺産等専門家会議
新潟県中越地域における更なる保全・活用に向けた助言

- 1 本地域の独特な地形は、長年の地すべりによる地形から、棚田景観が形成され、斜面からの湧水が得やすく養鯉池の確保が容易であるという特徴がある。また、豪雪地帯であることから、冬には鯉を屋内施設に避難させる必要がある。このように自然環境から養鯉と稲作が混在する独自の景観が生まれた地形や歴史的背景を含めて、養鯉と稲作の関係を中心にシステム全体の特徴を再度整理し、今後の活動につなげていただきたい。
- 2 米生産者と養鯉業者の所得差もある中、稲作と養鯉を組み合わせた持続的な発展をどのように実現していくか、例えば利潤を還元する仕組みなどについて、今後の展望を次期保全計画へ記載されたい。
- 3 本地域はレジリエンスが高い点が特徴であるが、災害は、自然が持つ恵みでもあり、脅威でもある。これらの自然との共生も含め、地域のストーリーとして再度整理し、イベント等を活用した対外的な情報発信に繋げていただきたい。
- 4 農地集積や養鯉池を支援する制度の活用、若手生産者間の交流促進等、本システムを次世代へ継承するため取組には今後も期待したい。
- 5 古き良き景観を強調するだけでなく、それをサポートしている仕組みも含めて農業システムである。本システムを保全するための近代的な技術や施設も含め、広い意味での循環システムの維持・保全に繋げるための次期保全計画の作成を期待する。
- 6 保全計画として掲げていた目標のうち、未実施の事項（GAPの取得）がある。次期保全計画を作成する際は、関係者と十分に協議し、実現可能な計画を記載いただきたい。

(以上)